

# 本日比半全学学生総決起集会に総結集せよ!

コメンタリー  
No.6  
1968 7.10  
教育大文学部  
斗争委宣伝局 発行

本日、ストライキ斗争の更なる展開をめざして登校されたすべての学友諸君、一昨日の学生大会において圧倒的なスト実行を決定して理学部の学友諸君、

現在我々の調査と計上決定撤回/対策討議大衆団交要求/出陣倒的な闘いは、農学部を始めとする敵役隊に對して、一定の動搖と活動化状況をもたらしている。しかしながら、大学当局は頑強に学生との接触を拒否しつづけ、三輪「学長」、三浦「学部長」は等々く「ヨロク」に至っている。ヨロクその補完として、教育学部等でも昇られるさうに、度重なる「大衆団交」によって、農学部等でのように学科突破によって、学生へのデマゴギーの注入切の崩しが行なわれている。又、文学部においては、就転争い拒否の洞喝が加えられ、四年生切の崩しの発動が進行しつつある。このような種々の卜刻みな干渉弾圧をばうめぐらし、かまねて学生との接触を拒むことによつてスト体制の自然崩壊を狙っているのだ。今、我々が徹しく向わっているのは、この「意図」通り自然崩壊を遂げるのみ、それともあくヨロクを続けるのみである。

ここに於いて、文学部斗争委は7月2日学生大会の決定を受けて、長期無期限ストの方針を高く掲げて闘い抜く深意を明らかにしている。今や闘いはハッキリと力と力の対決の局面に入っているのだ。一方においては、理学部の学友と連帯して、闘いの序列をなげ大塚封鎖・全学ストを最後迄追求することばかりであり、又一方においては、夏休みをも含む長期のスト本館封鎖の闘いを担うべき主体の感代ははらぬがならない。我々の闘いは至学的になりつつあるゆゑ、各学部の闘う学友の固い連帯をうち固め、統一してMID委粉砕/評議会団交要求/調査と計上阻止/出陣の行動を展開するの必要急の課題である。この闘いの中でこそ、又自治会/斗争委の闘いの内実/箱根研究学園部粉砕、ツリキヤンパス/脱粉砕/を普遍化し物議を呼ぶべきである。また、7日理学生大会においては、MID委

に對して至学的斗争を展開することを確信している。文斗身委も、10日定期敵役隊/日MID委をひかへ、統一行動の必要性を痛感するばかりの四学部自治会(執行部)に對し、文斗身委の叫びを呼びかけたいわけであるが、未だ、この要請に對して、一言たりとも回答がなされていない。彼等にはら日統一戦線の不十分性と闘いを脱しようとする意気は至らないのだろく、登校された全ての学友諸君、

この統一戦線に力をつけよう。単位の圧倒的な隊列で参加し、学なる「意見交換会」をこのうちで、今日明日からの至学的な方針を設定する場として、今日ではないか。又、現在における闘いの至学化の組織的保障/至学斗争委創造人の一歩をこの集会の圧倒的成就のうちかちとろう。今日調査と提出をひかえて、この十日間を、我々の全力を挙げて能動的な闘いを築き上げよう。今日、本館前に結集し、断固たる不退戦の意志を、夏休期間の斗争体制を結集せしめよ。勿論、我々の体制強化は、学校側との徹底的な緊張関係の追求によつて、その内実をうるのである。

## ＜本日のスケジュール＞

- 11:00~ 文学部総決起集会 (本館前)
- 12:30~ 全学学生総決起集会 (本館前)  
学内デモンストレーション  
行動提起
- 6:30~ 斗争委員会

# 13日(土)学生大会

斗争の更なる前進と  
スト体制の構築を

本日七・二〇全学総決起集会に結集しよう！

全学の学友諸君！

六・二〇調査費計上撤回、対評議会団交実現をめざす  
我々の斗いは、現在極めて重大な局面を迎えている。

文拠卓スト、本館封鎖を突破口に理、農フトと燃之広がった我々の斗いにもかかわらず、大学当局は、一切我々の要求に応ずる姿勢をみせていない。のみならず、七・一〇教授会事後了解、七・一〇マスタープラン委最終調整をステップに強行的な調査費計上をめざし、我々の眼をかすめて策動をめぐらせているのだ。

そして我々学生の斗いに対しては、就取回匙等を使い、卑劣な切り崩し策動をなしつつ、我々学生内部の消耗と斗いの自然消滅を計ろうとしている。

この調査費計上が、来年三月MPC委最終答申↓45年度部分移転という筑波移転推進の重大な布石である事を確認する時、我々はこうした大学当局のもくろみを決して許すことはできないだろう。

我々は現在のスト、本館封鎖を堅持する中で要求貫徹まで断乎たる斗いを続けることを強固に意志確認せねばならない。そして、昨年の斗いを総括する中で、全学的な斗いの内実を単なる「非民主的決定への抗議」から明確な「六・二〇の決定白紙撤回」を貫徹するストへと高めていかねばならないのである。

我々文斗争委は以上の確認と去る七、六統一集会の総括にふまえ、全学の学友の一大結集を呼びかける。

最終局面にある筑波推進の流れを逆流させる力は無力化した教授会自治の限界を明確にふまえ、移転阻止のストーガンを高くかかげた我々の強固な意志と行効と力以外には存在しえないのだ。

文斗争委のこのアピトルに呼応する教育大のすべての学生自治会及びクラスの代表は本日午前十時まで連絡されたい。